

地産地消地元食材を活用した 健康グルメのヘルシーツアー企画に関する調査研究

指導教員：金沢大学理工学研究域 教授 高山純一，准教授 中山晶一郎

参加学生：稲田裕介(代表)・福田正輝・藤田雅久・アハメド ワヒド ウッディン・中井惇弥・古田拓也・
宮本祐介・山下翔太

1. 調査研究成果要約

全国的に有名な観光スポットが多いとはいえない「かほく市」においては、市全体が方向性をそろえた共通の観光戦略が必要であると考えます。本報告概要では、「健康に気を使う中高年の日帰り旅行者(または、金沢・能登での宿泊者)にターゲットを絞ったヘルシーツアーの企画」として、その中で盛り込まれる可能性のあるものを提案しました。

農家と一般世帯に対してのアンケート調査結果および、インターネット、文献収集・現地調査を基に、ツアー企画の骨格の提案を行った。

2. 調査研究の目的

近年、「メタボリックシンドローム」や現代的「生活習慣病」などを患う患者が増加しており、その対策が急務である。メタボリックシンドロームや生活習慣病の改善・解消には、生活習慣の見直し、適度な運動（運動療法）とともにカロリー管理（食事療法）を行うことが有効である。

かほく市は、知名度の高い観光地が少ないが、四季折々のおいしい食べ物や風光明媚な自然が多く、「健康」と「美食」をテーマにした新たな健康観光ツアーの可能性が高いと考えられる。

そこで、本調査では、かほく市における、地元食材の調査、健康ウォーキングのためのツアーコースの調査、健康を意識した体験型観光に関する調査等を行い、健康グルメを活用したヘルシーツアーを企画することを目的とする。また、かほく市内で実際に健康をテーマにした観光ツアーが実現可能かどうかを明らかにしたいと考える。

3. 調査研究の内容

本研究の主な内容は表1に示す5つである。これら5つの調査項目に対して、文献による情報収集、現地調査による現状把握、アンケート調査による一般住民および農家の意識把握を行った。以下、その内容に関して述べる。なお、アンケート調査に関しては、現時点での回収サンプルが少ないため、ここでは割愛する。

表1 調査研究の内容

調査項目	調査スケジュール	調査手法
①かほく市内での地元食材の調査	7月～12月	文献調査・現地調査 アンケート調査
②文化・運動・観光等の施設の調査	8月～12月	
③ツアーコースの調査	8月～12月	
④観光PR調査	8月～12月	
⑤健康を意識した体験型観光に関する調査	8月～12月	

3.1 地元食材に関する調査

かほく市では、ぶどう、柿、大根、かほっくり(サツマイモ)、スイカ、長イモの6品目を、かほく市の基本構想に基づき産地を育成し、ブランド化を促進している。

図1に、かほく市内で作られる農作物の基本的な流通経路を示す。地元食材を利用したツアーづくりを行う上で、「地産地消」が必要なキーワードとなる。本研究では、市内農家がどのような作物を作り、それがどの程度市内で流通し、消費されているのか把握するため、アンケート調査によって把握を試みた。

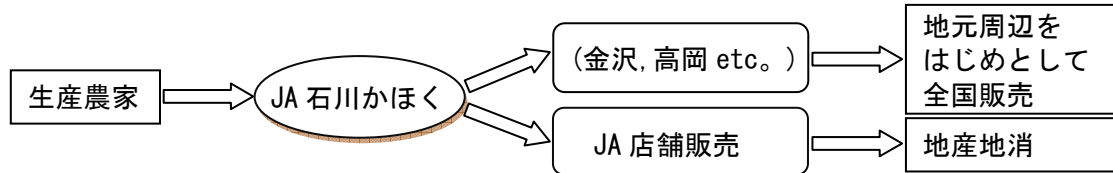


図1 農作物の流通経路

以下の表2に、かほく市がブランド化を進めている農作物の効用を列挙する。それぞれの項目に関して、述べる。

表2 かほく市農作物の体への効用

農作物名	効用
ブドウ	疲労回復、動脈硬化予防、ガン予防
柿	風邪予防、美肌効果、血圧の高めの方、二日酔い
かほっくり	便秘予防、大腸ガン予防、美肌効果、血糖値の上昇が緩やか、動脈硬化予防
長いも	老化の予防や肌荒れ、疲労回復、便秘の改善、ダイエットに効果
ダイコン	胃もたれ、胃炎・胃潰瘍予防、ガン予防
スイカ	腎臓病改善、むくみ改善、血圧下降、体を冷やす効果

(1) 農産物

石川県ではブドウの新品種としてルビーロマンを開発しブランド化を図っている。かほく市でもルビーロマンを育て全国に出荷しているが、地元向けの出荷(販売所)は消極的と見受けられる。このルビーロマンをブドウ狩り(体験型観光)に取り入れるのもインパクトの面からは面白いかもしれない。ブドウ狩りは、表3に示す通り、市内数か所で行われていることが分かった。また、柿も収穫の季節になると収穫体験が行われている。本研究では、果物をはじめとした農作物のオーナー制度の実施に関しても、農家と一般家庭に意向を調査した。農家に対する調査内容として、農産物の地産地消の現状、オーナー制度について行っているのか、行われていない場合オーナー制度にどのような関心を抱いているのか、農産物の加工品の生産・販売は行われているのか、どのように行われているのか、などである。詳細については、発表時に示す。

表3 かほく市内でのブドウ狩りの例¹⁾

味覚狩りスポット	期間	食べ放題	料金	持ち帰り
モアイ農園	6月中旬～10月上旬	○	大人1,000円 小人700円 園児500円	100円/100g程度
竹林ブドウ園	(デラウェア) 7月上旬～8月中旬 (巨峰) 8月上旬～8月下旬	○	(デラウェア) 大人(中学生以上) 800円 小学生600円 幼児(2歳以上) 400円 (巨峰) 大人(中学生以上) 1,000円 小学生800円 幼児(2歳以上) 600円	×
湖北果樹園	8月末～9月末	×	入園無料 もいだものは800～1,000円/kg程度	1,200円～/kg程度
加賀フルーツランド	(デラウェア) 6月下旬～8月下旬 (ブラックオリンピア) 8月20日頃～10月初旬	○	(デラウェア) 大人1,200円 小人950円 幼児650円 (ブラックオリンピア) 大人1,600円 小人1,250円 幼児800円 (マスカットベリーA) 大人1,300円 小人1,000円 幼児650円	×

(2) 海産物

かほく市には漁港が存在せず、水産物は近くの漁港から仕入れている。これについて、地元の飲食店や民宿がどこからどのような海産物を仕入れ、それがどのような人にどのように振る舞われているのか把握することは、かほく市内でのグルメツアーを企画する上で有用と考える。

現地では、キスの投げ釣りが行われている。このキス釣りをを行うのは個人の釣り人がほとんどであり、釣った魚を家に持って帰り調理をするのが通常である。提携している地元の飲食店や民宿に持ち込むと調理をしてくれるような制度もあってもいいのかもしれない。

図2にキスの栄養・効果などを示す。海産物や農産物の地元飲食店での消費については、市や商工会、地元商店の方に対するヒアリングなどにより今後意見を頂戴し、より深い現状および意向の把握が必要と考える。

キスは高タンパク・低脂質で、鉄分、カルシウムを豊富に含んでおり、カリウムも含まれている。キスのタンパク質は中でも特に重要なタンパク質「必須アミノ酸」を豊富に含んでいる。また、カルシウム、鉄分を含んでいるので、ストレスからくるイライラ予防、骨粗鬆症予防、貧血予防などにも十分な効果が期待される。

図2 キスの栄養・体への効果

(3) 郷土料理

かほく市の代表的な郷土料理は「笹ずし」、「大根寿司」、「かぶら寿司」、「大海みそ」等である。これらのものは、周辺の自治体でも同様のもの、類似のものが作られており、オリジナリティという面ではいくらか弱い面を持っている。しかし、健康という意味では身体にとっても良いと考えられるので、観光商品、グルメ商品として成り立たせるためには積極的なPRが必要となる。

(4) 創作料理

ここでは、農作物を使った加工品等に関して、観光PR効果を考えながら新たな資源の企画提案を行う。

・ルビーロマンの場合

一房の相場が安いものでも1万円はするルビーロマンは、一般観光客がそう簡単には手が届かないものである。ゴルフボールなみの大きさのルビーロマンでも一粒単位であれば多少高くても、手が伸びるのではないかと考える。この場合、ルビーロマンのプレミアム感を維持した状態で、多くの人にその良さを理解してもらうことができる。また、生産段階で剪定したものの商品化を考える。例えばジュース・調味料にしてみるなど、ブランド商品を加工品からアプローチすることもできるのではないだろうか。フランスの未熟ブドウからできた「ヴェルジュ デュ ペリゴール」は料理の調味料として用いられている。ルビーロマンの有効活用(エコ活用)の一つととらえることができる。今後、試験等を繰り返し実用化を図る価値はあるのではないだろうか。

・かほっくりアイスの場合

かほく市の特産物として表1で上げたもののうち、大根以外のものについては、かほっくりアイスと同様アイスとして販売することができるのかもしれない。「健康」というキーワードから外れるかもしれないが、シリーズ化を図り、一体的な販売体制を敷くことで、かほく市の宣伝効果を増すことができる。また、加工品とすることで旬の季節以外でも、特産物を観光客は味わうことができ、1年を通じて特産物をアピールすることができるのではないだろうか。

・その他特産物に関して

農作物は様々な料理や加工品に利用されている。しかし、それらを調理するとき、調理方法により栄養成分がさがれてしまうことがあるので注意が必要である。スイカの場合、「果糖は低温の方が強く感じられるので、冷やして食べる方がよい」「実の白い部分にはビタミン破壊酵素のアスコルビナーゼが含まれているので、調理する時に酢を使うとよい」などを考慮し、栄養価を最大限に利用したグルメ料理の企画ができないか検討する価値が存在する。

3.2 PR 方法に関する調査研究

健康をテーマとしたグルメ観光を企画する場合、ターゲットとなる観光客が注視する項目として、「まずそれが本当に健康であるのか、美味しいのか」があげられるのは当然だろう。そこで、例えば市や商工会のホームページで特産物をはじめとしたものの栄養価や効果、それを使った簡単なレシピなどを示しておく方法が一般的である。さらに、特産物を材料に使った商品などを示すことで、積極的な広告活動を行うことが有用である。後述するウォークラリー企画においても、チェックポイントとなる地点に特産物を使った飲食店情報(メニュー)、特産物のマメ知識などを示すことで、ウォーキング中の食欲を掻き立てられるかもしれない。ウォーキングコースは、直売所の位置なども考慮するのがよい。

3.3 体験型観光に関する調査研究

・かほく市の体験型観光の現状と企画提案

かほく市では、市が主体となって体験型観光を行っているものは少ないが、小規模ではあるが JA や市民が自ら体験型観光をいくつも行っている。農業体験については、収穫体験がほとんどである。

漁業体験については、高松地区において地引網が夏から秋にかけてよく行われている。観光そのものを主にしているわけではないので、実施日時などについては問い合わせが必要となっている。

かほく市の文化について、全国に名の知れた寺社や歴史といったものは少ないと思われる。歴史そのものに対しての体験型観光は今のところ見つかっておらず、おそらく少ないものと考えられる。寺社での宿坊の提供や、そこでの精進料理の提供、朝のおつとめ、座禅、写経等の体験を通して心も健康になることが方法の一つとして考えられるのではないだろうか。文化施設としての西田幾多郎哲学館は、体験型事業ではないが哲学の文化に触れることができ、また不定期ではあるがホール等での催しを通してリラックスできる。

工芸体験等については、手芸教室や陶芸教室など、観光がメインではないが、いくらか小さなものは存在していた。かほく市の主要産業の一つであるゴム紐等の繊維産業を訪れる観光客に知ってもらい、手芸教室等を観光客向けに開催し、またその教室を長期的に行い、ひとつの大きな工芸作品(言い換えれば芸術作品)の作成・展示を行うのは新しい試みであると思う。

また、かほく市には、体育館やテニスコートなどのスポーツ関連施設が多く存在しており、市民が気軽にスポーツを楽しめる施設が整備されている。しかし、観光客がかほく市に来街した際に、利用してもらうための PR 方策や施設整備を進めることが重要である。そのためには、日常の体育館やテニスコートの利用率や料金体系を調査するとともに、健康を意識したスポーツ体験コースの企画などを行い、どのようにヘルシーツアーコースに取り入れるか、検討を進める予定である。

また、屋内型の施設は、雨や雪など悪天候でも利用でき、悪天候時の集客の可能性がある。雨天の多い北陸の気候を考慮する場合、天候にあったプランの選択肢が望まれる。その他に、雨天時は全体的に客数が減少するので、天候に合わせて例えば雨天割引などを実施するのも方法の一つとして考えられる。

スポーツの他に、サイクリングやウォーキングなど、体を動かすことによって健康促進を目指すことも考えられる。例えば、ウォークラリーやスタンプラリーなどを取り入れることにより、自発的に体を動かしてもらう催しを企画する。3.4節にて、その詳細を述べる。

・体験型観光に関するアンケート調査

本研究では、かほく市の農家の方と一般住民の方を対象としたアンケート調査の中で体験型観光に対する意向についての質問項目を設けている。農家に対しては、ホストとして実施したいと思うか、どのようにしたら実施したいと思うか等を訊き、一般住民に対してはゲストとして表4の重要項目を5段階で評価してもらい、その上で、表5に示す体験型観光を行いたいのか、またはどのような体験型観光なら行ってみたいかを訊いている。

表4 体験型観光での重要項目

評価項目
リフレッシュ・癒し
自然・景観
出会い・交流
味覚
伝統・文化
遊び
学び
ボランティア

表5 アンケート中での体験型観光項目

農業体験	果物狩り 田植え 果物オーナー制度 農家民宿での農業体験 植樹体験
漁業体験	地引網 櫓(やぐら)こぎ体験
文化・伝統体験	味噌づくり なれずしづくり 陶芸体験 手芸体験
自然・スポーツ体験	ウォークラリー サイクリング

※その他の項目はここでは省略

3.4 ウォークラリーについて

一般住民に対するアンケート調査では「健康」に対する意識調査項目で、日頃、ウォーキングをはじめとした低負荷の運動を行っている人が多いことが分かった。ここから、以下のようなウォークラリーを企画する。

- ・ 出発時にメディカルチェックを行い、当日の健康状態を把握する（健康情報のフィードバック）。
- ・ 万歩計・サイクルメーターを活用してもらい、歩数やキロ数に応じて、地元の飲食店・宿泊施設で利用できる割引券を発行する。
- ・ 食品情報(カロリーや栄養素、効用など)を記した案内板をコース沿いに設置し、コースの確認だけではなく、健康に関する情報を提供する。また、郷土料理を掲載することにより、地元食材のPRにも活用する。

3.5 ヘルシーツアーコースに関する調査研究

現地調査を行い、次の項目の確認を行った。ここで得た情報のマッピングを行い、ツアーコースの概略が完成した。以下の図3に、それらを示す。

- ・ 歩行、自転車運転に際して注意すべき地点の確認（歩道の有無など）
 - ・ 距離・所要時間の把握
 - ・ 対象地域の面積や周辺の状況の把握
 - ・ 農作物直売所や飲食店等の位置・内容把握
-
- ・ 自然・文化・スポーツなどのそれぞれのテーマに絞ったコース
 - ・ 季節に応じた自然・食材を用いたコース
 - ・ かほく市を3~4ゾーンに分けて、地域の特性を生かしたコース

図3 ヘルシーツアーコースの概略

4. アンケート調査の概要

かほく市における魅力、本企画への意向などかほく市内の農家ならびに一般住民を対象としたアンケート調査を行った。表6にアンケートの主要な質問項目を示す。

表6 主要なアンケートの調査項目

【農家へのアンケート】		【一般住民へのアンケート】	
農業に関して	農業規模	基本属性	職業・年齢・家族形態etc.
	作物の種類	地産地消に関して	特産物へのなじみ
	農業形態		食品を選ぶ際の意識
	従事者	健康に関して	健康意識
今後の農業規模	重要だと思う項目の評価		
農作物販売	出荷の有無		日頃の運動の心がけ
	出荷場所	健康診断等の重心有無	
	販売形態	健康ツアーへの意識	
	販売への興味	かほく市の魅力	農業、自然、遊び、歴史文化等の各カテゴリの項目に関して評価
特産物の周知に必要な項目、手法	文化施設の魅力度、その理由		
かほく市の魅力	農業、自然、遊び、歴史文化等の各カテゴリの項目に関して評価		体験型観光
	文化施設の魅力度、その理由	どのようなことを行いたいか(ゲストとして)	
	体験型観光	重要項目	
どのようなことを行いたいか(ゲストとして)		ウォークラリー大会企画の意向	
運営を行いたいか(ホストとして)etc.		ツアーに盛り込みたい項目etc.	

現時点での回収サンプル数は少ないが、傾向として、高齢などを理由に農家では運営に対して消極的な意見が多い半面、一般住民にとっては本ツアーへの関心が非常に高いことが分かった。ただし、かほく市の魅力についての項目では、全体として魅力の高い施設は少ないという結果となった。

5. 調査研究に基づく提言

農家に対してアンケートを行った結果から、市の努力をもっとも求めていることが分かった。本研究から、今後、市が一体性のあるツアーづくりに、地元商工会やJAと協力してツアー企画を提案する上での課題を解決していく必要があるといえる。

6. 調査研究の自己評価

地元の農家や住民を対象にアンケート調査を行った結果、かほく市にはまだ多くの課題が存在することが断片的ではあるが明らかとなった。今後、JAや市等に聞き込みを行い、また、ツアーコースの詳細を決定すること、都市計画マスタープランとの兼ね合いを十分検討することなど、ツアー企画の妥当性・実現可能性を検討することが課題といえる。

謝辞

現状把握・アンケート作成に際して、現地調査に協力していただいたかほく市商工会の方々には、この場を借りて深く感謝の意を示す。また、アンケート調査に協力していただいた一般市民、農家の方々にも感謝したい。

参考文献

- 1) 独立行政法人 農畜産業振興機構ホームページ(<http://www.alic.go.jp/index.html>)etc.
- 2) かほく市広報紙、ホームページ(<http://www.city.kahoku.ishikawa.jp/>)